

第2回富津市史跡内裏塚古墳群保存活用計画策定委員会 会議録

1 会議の名称	第2回富津市史跡内裏塚古墳群保存活用計画策定委員会
2 開催日時	令和8年3月23日（月） 13時30分～15時30分
3 開催場所	富津市役所 502 会議室
4 審議等事項	議題 (1) 保存活用計画案の内容について
5 出席者名	(委 員) 杉山 林繼、笹生 衛、小澤 洋、赤坂 信、阿部 貴弘、 加藤 文男、御巫 由紀、白石 正雄、小泉 雅弘 (オブザーバー) 黒沢 崇 (事務局) 山下秋一郎、中山 淳子、篠田 優子、牧野 啓介、佃 沙 奈、金木 佑天、中村 文洋
6 公開又は非公開の別	☒ 公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
7 非公開の理由	-
8 傍聴人の人数	1 人（定員 5 人）
9 所管課	教育部 生涯学習課 文化係 電話 0439-80-1342
10 会議録（発言の内容）	別紙のとおり

発言者	発言内容
篠田課長	皆様こんにちは。皆様方におかれましては、ご多用のところ、本委員会会議にご出席を賜り、誠にありがとうございます。 本日の進行を務めさせていただきます、生涯学習課長の篠田でございます。どうぞよろしくお願いいたします。 先日、皆様へ本計画案の第1章から第3章までの資料を送付させていただき、ご意見を頂戴いたしました。いただいたご意見につきまして、計画に反映させていただくもの、また、本日ご審議いただく内容もありますので、皆様方には、忌憚のないご意見をお聞かせいただければ幸いです。 また、本日、富津市史跡内裏塚古墳群保存活用計画策定委員会設置要綱第7条の規定により、オブザーバーとして、千葉県文化財課指定文化財班班長の黒沢様にご出席いただいております。 それでは、会議に先立ちまして、担当より配布資料の確認をさせていただきます。 資料確認
篠田課長	それでは、ただいまから、第2回富津市史跡内裏塚古墳群保存活用計画策定委員会会議を開始いたします。 はじめに、笹生委員長よりご挨拶を頂戴いたします。 笹生委員長挨拶

篠田課長	ありがとうございました。 次に、本日の出席状況ですが、出席委員 9 名と全員が出席となります。従いまして、本委員会設置要綱第 6 条第 2 項の規定により、過半数の委員の出席をいただいておりますので、会議が成立いたします。 また、本日の会議は、富津市情報公開条例第 23 条第 1 項により公開となります。なお、本日の傍聴人は 1 人です。なお、本日の資料のうち、計画（案）1～76 頁につきましては、会議終了後に回収させていただきますので、ご了承ください。 また、会議録調整のため録音をさせていただきますので、ご了承願います。 それではここで、本会議の議長についてですが、本委員会設置要綱第 6 条第 1 項の規定により、「委員長が、会議の議長となる。」となっておりますので、これよりは笹生委員長に会議を進めていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。
笹生委員長	それでは議長を務めさせていただきます。 はじめに本日の会議の会議録署名人を指名させていただきます。会議録署名人には、杉山委員、加藤委員にお願いいたします。 それでは、これより次第 3 の議題に入りたいと思います。 議題（1）保存活用計画案の内容についてですが、ボリュームが多いため、章ごとに事務局から説明をいただき、委員・オブザーバーの皆様から意見を頂戴したいと思います。今回、資料を個々に読み上げることはせず、事前に意見をあらかじめ集約した形で進めています。まずは、序章と第 1 章について、皆さんからの事前意見への対応を含めて、事務局から説明をお願いします。

事務局	P3 目次 「第4章以降も案として記載しておいた方が構成のイメージが付きやすいと思う」という意見について、第4章以降の章立てを追加しました。 P5 最下段 「各古墳の取扱いについて、今回の会議でもある程度問題提起し、委員の皆さんからどのような意見・考え方があるかを探り、第5章の書きぶりに反映させるとよいと考える。範囲としてはよいが、8基以外の古墳 15基の史跡化については、市の考えている整備の方向性・規模感や各古墳の事情が大きく関係してくると思われる」という意見について、15基の古墳の取扱いについて、市の内部で協議し、第6章の中で取扱い（案）を示します。 P6・7の図 「最初に出てくる図なので、左の吹き出し枠内で富津市が千葉県の中の位置が分かるようにした方がよい」という意見について、富津市の位置図を追加して対応します。 「内裏塚古墳の名称が、綴じ込み部分（のど）にかからないようにすべき」という意見について、図を修正して対応します。 P11～ 「第5節「他の計画との関係」以降の記載も、西暦併記の方が分かりやすい」という意見について、（ ）書きで西暦を表記します。 P15 (3) 「情報発信施設として「古墳の里ふれあい館」や郷土資料コーナーが記載されているが、あくまでも仮設のものである点は明記すべき。また、資料の保管・収集・研究機能は全く持っておらず、情報発信の施設としての効果は限定的である点についても明記すべき」という意見について、第5章の「活用の現状と課題」の中で課題として明記します。
笹生委員長	ただいま、第1章について事務局から説明がございました。この件につきまして、委員の皆さんから、事前にいただいた意見への対応も含めて、意見がありましたらぜひお寄せいただきたいと思います。いかがでしょうか。
小澤副委員長	些細なことで申し訳ないのですが、第1章の2行目で「5世紀中頃から7世紀かけて」という記述があると思いますが、細かく表記するのであれば「7世紀中頃」ということにした方がいいのかなと感じます。

笹生委員長	それから、もう一つメールでも出していますが、詳細不明とされている古墳の調査についてです。亀塚古墳や九条塚古墳に関しては、ある程度の内容や出土品も分かっております。一応「詳細不明」という風に限定すればそうなのかもしれませんが、ある程度の内容が分かっているわけですから、「詳細不明」という言葉は少し乱暴というか、簡単に済ませすぎかなという気はしています。後を読んでいきますと、これについて触れている部分もありますので、詳細不明であると簡単に括ってしまうのはどうかと思い、共有したいと思いました。
笹生委員長	ありがとうございます。今の小澤副委員長からのご指摘の部分は、その後の第5章の内裏塚古墳群の現状と課題、もしくはその前の第4章の「史跡の本質的価値」というところで、詳述する予定になってくると思いますので、そのあたりとのバランスを考えられてのことかと思います。 「詳細不明」というよりは、「ここまで分かっているが、細かい内容は第4章で」という形での整理もありえるかと思います。牧野係長の方で全体の構成を出してくれているところだと思いますので、少しバランスを取りながら全体の構成を見ていけば、小澤副委員長のご指摘はクリアできるかと思います。 委員長があまり話しすぎるのも良くないかもしれませんが、一つ気になったのが、本日の資料の中にもありますが、6、7ページの飯野陣屋の中にある稲荷塚古墳が、研究史上、戦前にすでに史跡指定をされていたということです。これも墳丘がなくなっていますが、周溝等がまだ残っているのかどうかということも含めて、今後の保護や活用に向けた取扱いを、全く「なし」にしてしまうのか。他のところでも周溝が残っている古墳についてはある程度視野に入れて考えているので、内裏塚古墳群全体の研究史で見たとき、戦前に指定されていた稲荷塚古墳というのは重要な意味があるかと思います。そのあたりの方向性というのも少し考えてもらってもよろしいかと思います。 周溝だけでも確認できれば、市の方でもガイダンス施設などを整備するときに自由に活用できる拠点になるかもしれませんので、そのあ

小澤副委員長	たりを視野に入れていただくとよろしいのではないかと思います。委員の先生方、いかがでしょうか。 稲荷塚古墳に関しては、房州石の石材が出土しているのですが、まだ周溝の確認というのができておりません。ですから、確認を何らかの形でやった上で、もし周溝が確認できるということが分かれば、他の古墳と同じぐらいの価値があるということになります。やはり、内裏塚古墳群の研究史の中でも戦前に指定されていたというところは大きいと思いますし、市有地というところもありますので、市の自由が利くところかと思います。そういう意味では、ガイダンスをする上でも一つ拠点になるような場所になる気がします。
笹生委員長	6 ページ、7 ページの内裏塚古墳群の右の方に稲荷塚古墳というのがあります。これが戦前に史跡指定になっていたのですが、忘れられてしまったんですね。墳丘はないですが、周溝は残っている可能性が高いです。しかも市有地ですので、指定の範囲をどこまでやるかという大枠の中で、これは一つ拠点になると思います。今後、保存活用する範囲の中に少し考えておいていただいても差し支えないところかと思います。 委員の皆さん、その他いかがでしょうか。第 1 章はどちらかというところ、全体の沿革を含めてということになりますので、大掴みのところが本日の議論になります。まずはこの辺りでよろしいでしょうか。 あともう一点、委員長の方から提案させていただくと、資料が各地に分散して保管されているという状況があります。これを一度に見ることができる拠点となる保管施設というの、やはり活用には結びついていくと思います。後半のところでも明記していただけるということですが、現状あるものはあくまでも「仮設のものだ」という認識は持っておいていただいた方がいいのかなと思いました。 地元の小泉委員、白石委員、地元の観点も含めて何かあればぜひお寄せいただければと思います。いかがでしょうか。

白石委員	我々もこのことを考えて色々勉強しているのですが、1 から 10 まで完璧にやるのは大変だと思います。これで内裏塚古墳群が皆さんの手で活用できるような形でこれから維持されてくればありがたいなと思っておりますので、今後もそれを見ていきたいと思ひます。ありがとうございました。
笹生委員長	全国的に見ても、古墳群に対する関心というのは 20 年前に比べるとかなり高くなっていると思ひます。これは街づくりや地域づくりにもかなり貢献できると思ひますので、そこを含めて全体で取り組んでいただくのが重要かと思ひます。
加藤委員	学術的な話ではないのですが、こういう計画を作る時、古墳を活用して地域振興や文化振興をやるんだということであれば、ある程度その「覚悟」を書いていかないと、単なる「方法書」で終わってしまうような気がします。 例えば、販路開拓といったアピールポイントを作って、集客のシステムまで作る、集客を収益に変える施設を整備する、集客がきちんとできるシステムの整備など、そういうところまでやるというのは、ある程度目標の中で「読んで期待する」というか、ワクワクするところが計画の目的として必要だと感じます。そういうところに踏み込まれると、地元も動いたりしてくるのかなと思ひています。
笹生委員長	ありがとうございます。目的のところに、市としてこれを上手に活用していくということは重要だと思います。富津市にとって、日本遺産が南の拠点だとすると、内裏塚古墳群は北の拠点になる。そういう踏み込んだ積極的な活用を考えているんだというところを書いていただくと良いと私も思ひます。加藤委員の意見に全く同感です。 この保存活用計画は、今後おそらく第 4 章、第 5 章を詰めていく中で具体的にそこら辺が見えてくると思ひますので、その中で柔軟に記述ができるような対応でもよろしいかと思ひます。活用していきたいという意図を明確にする方向で、事務局の方とも調整をしながら進めていただければと思ひます。

阿部委員	関連しての意見です。史跡の活用の会議に臨むにあたって、結局、道路等に関する当局との連携がなかなか取れなくて、活用と言った時に「学校教育で活用します」ということで、観光といってもチラシを作る程度で終わってしまう可能性もあります。 当局との連携が必要になってくるぐらいの活用を意識して取り扱うのか、あるいは学校教育を主体として地域の活動を前面に置くのか。今後の取り組みや会議の運営、あるいは第7章、第8章を念頭に入れたアプローチにも関わってくると思います。記述はぼんやり書いてあるので大丈夫だと思うのですが、本当にどうするのかというところは、早めに腹を括っていただいた方が本質的な議論が展開できるので、提言としてよろしくお願いします。
笹生委員長	阿部委員、ありがとうございます。ごもっともなお話だと思います。特に市街地の史跡をどう活用していくかというのは、教育委員会だけではできず、都市計画も含めてという話になってくると思います。他の地域の景観の取り扱いや、県内ですと、香取市の伝統的建造物群保存地区の扱いなどのように、集客や積極的な活用につながるような形を参考にしながらという意味でのご指摘かと思います。 この点について、事務局の方から何かレスポンス等がありましたらよろしくお願いします。
事務局	今すぐにここを変えられるというわけではありませんが、本日の会議には都市政策課長、また商工観光課長も出席しておりますので、この後の整備計画の中などで共有していければと思っております。よろしくお願いします。
笹生委員長	全庁的な連絡体制が必要になってくるというご意見だと思いますので、ぜひ積極的に対応をお願いできればと思います。 その他、第1章についてはよろしいでしょうか。オブザーバーの皆さんから質問、意見がございましたら発言願います。

黒沢指定文化財班長（オブザーバー）	私の方から、この最初の目標設定と財源的なところということで、あまり後で検討するよりも、早めに市の方で対応や規模感、方針を示していただいた方が、第6章をやるとなった時に良いかと思います。事前に今日のようにどんどん意見を出してもらう方が、時間的にも良いと思いますので、ご検討いただきたいと思います。 また、内裏塚古墳群自体も台帳の中心に寄ってしまっているの、図面上のレイアウトで工夫していただきたいと思います。以上です。
笹生委員長	ありがとうございます。その点はまた県からご指導いただければと思います。では、引き続き第2章に移っていきます。事務局から説明をお願いします。
事務局	P20 「区域別の色の凡例が読み取りにくい」という意見について、凡例を大きくして対応します。 「少なくとも各主要古墳との位置関係もあると良いと思われる」という意見について、図上に主要古墳の位置がわかるよう記載して対応します。 P22 (2) 「湊川流域に国造級の有力者が存在したのかについては、明確な根拠が必要」という意見、「横穴群の6・7世紀以来の考古学的な情報と「倭文」関係の文献の情報は、整理して時系列で整理して記述するほうがよいのでは」という意見について、【別紙3】のとおり、湊川流域の古墳・横穴分布密度から示唆していますが、本会議で検討いただきたいです。 P22 (2) 「岩富寺・最上寺の創建に関する縁起に基づく情報は、歴史的な事象として不必要ではないか。むしろ、三直遺跡・外箕輪遺跡・上湯江遺跡などで発見された10世紀～14世紀頃までの中世の集落動態を記すべきではないか。そこでの出土遺物から、水上交通、特に江戸湾を通じた鎌倉との水運を特記すべきではないか」という意見について、【別紙4】のとおり、中世の集落動態を追記し、水上交通の変遷を明記します。 P23 (2) 「内裏塚古墳群の南側の小糸川低地が入江状になっていたとの記載の根拠は何か。この部分（川名川の低地帯）が、小糸川の旧

	河道であったのは、ボーリング調査の結果、約 2 万年前で（君津市史自然編、1996 他）とされており、古代の河道跡であったとの誤解を招きかねない。また、この部分は、下谷・飛附遺跡の発掘調査成果から、少なくとも古代において水を湛えた入江状であったとは考えにくいのではないか」という意見について、【別紙 5】を参考に、小糸川低地の地形分布図を作成します。これまで提示してきた地図と大きく変わるので、併記して相違点を指示する地図を作ります。旧河道の範囲については、会議で検討いただきたいです。 P23 (5) 「内裏塚古墳群の多くの古墳の墳丘にはマテバシイが」に変えた方がよいのではないか」という意見について、修正して対応します。
笹生委員長	ただいま、第 2 章について、事務局から説明がございました。この件について、委員の皆さんから質問、意見がございましたら発言願います。
事務局	全体に言えることですが、専門用語を減らし、もう少し分かりやすい用語に修正したいと思います。図版の掲載がないものがありますが、これまで市で出していた文化財の全体図のマップが著作権の問題で使用できないため、新規に地図を作製中です。これも順次差し込んでいきます。申し訳ありません。
笹生委員長	はい。では、意見を集約した内容ですが、専門的な内容が多かったものの、全体を通して何かご意見があればお伺いしたいと思います。
赤坂委員	河川ではなく、海との繋がりを重視すべきという意見もあります。個人的な見解としては、内裏塚古墳群は江戸湾、あるいはもっと広いところからの眺望というのも意識している可能性があります。

笹生委員長	これは私の見解としてお話しさせていただきますが、私は他の先生たちと一緒に青堀駅前の集落の発掘調査もやっていますし、最近では亀塚古墳や狐塚遺跡といった内裏塚古墳群の海辺の集落遺跡も掘っているのですが、かなり東海地方や他地域の土器がいっぱい入っているんですね。ですから、あまり河川にこだわらなくても、富津の海浜には、東海や西の方から多くの人が入ってきていたと考えられます。 青堀側のライン沿いにある集落遺跡からは、東海地方、静岡の土器や、尾張、伊勢湾岸の土器も結構出てきています。この海浜の集落は明らかに他地域の土器が多く、竪穴住居を頻繁に建て替えている傾向が強いので、海浜部での人の出入りがかなりあったと考えられます。ですから、富津の海浜が他地域の人がやってくる交流の場になっていたと考えた方が良く、地元の土器よりも他地域のものの比率が非常に高いというのは小澤副委員長も指摘しているところです。 海域を通じた他地域との交流の一つの拠点になっているということも、内裏塚古墳群を位置づける上で広い意味になってくると思います。それが5世紀の段階で非常に重要な意味になってきたというストーリーが、史跡としての価値につながってくると思います。 赤坂委員のご指摘の通り、海との関係、海から見られるというのは重要ですね。場所を特定するよりも、むしろ海との繋がりが非常に強い地域として富津の根元を位置づける。富津の根っこはここにあるんだというような位置づけにすることが、活用的な面でのイメージづくりに重要になってくると思っています。その他何かございますでしょうか。
阿部委員	第3章の方にも関わってくることですが、この報告書自体をどういった人が手にするかを想定した時に、基礎知識のある専門家の方であれば通用するかと思うのですが、専門ではない初心者の方が手に取ることを想定すると、少し知識がないと理解が追いつかない内容になっています。非常に詳しいけれども初心者には伝わりにくい内容になっていますので、言葉を補っていただければと思います。例えば第3節の間にいろいろ川や地名が出てきますが、それがどこだか分からない。24ページの地図で補足していただくと、初心者にも訴えかけることができると思います。最終的にWeb公開になるのかもしれませんが、ご配慮いただけると良いかと思います。

笹生委員長	ありがとうございます。非常に良いご指摘です。ページによっては「槍先型尖頭器」とか「楔型石器」といった専門用語が出てきますが、考古学概論を聞いていないと多分わからないですね。図を付ければいいという話ではなく、「旧石器時代から縄文時代の一番古い段階の土器が出ていますよ」という表現の方が分かりやすいと思います。「富津というのは、そういうような段階から歴史がありますよ」というところで話をすべきというご指摘の通りかと思います。専門家の皆さんだけが共有するものであれば良いですが、これを見ると地元の方々が自分たちとは関係ないと思ってしまう可能性があるかと危惧します。 富津だって1万年以上前から人が住んでいたということをここで言いたいわけですね。詳細に書くというなら、章を分けて書いた方がいいでしょう。貿易陶磁器についても、「中国製の青磁や白磁が出ている」「鎌倉を通じて活発な交易の品々が返ってきている」といった表現の方が違和感がない印象があります。いきなり難しい話になってしまうとシャットアウトされてしまうので、そのあたり工夫いただければと思います。 特に小泉委員や白石委員といった地元の方が読んでみて「こういう場所だったんだな」と再認識できるような報告書に整理していきたいと思いますし、阿部委員が「これを使えば地域資源になりうる」というヒントが得られるような構成が重要かと思います。 では、時間が迫っていますので、第3章も含めてお願いいたします。
事務局	P26 (1) 「川名川低地帯については、下谷・飛附遺跡の発掘調査成果から、少なくとも古代において水を湛えた入江状であったとは考えにくいのではないか」という意見についても、会議でご検討いただきたいです。 P34 (5) 「「内裏塚古墳群」の名称改訂の部分には、なぜ、この名称が妥当と判断されたのか、理由も明記すべきではないか」という意見について、調査の過程で、「古墳の分布が旧飯野村の範囲を越えて旧青堀町にも及んでいること、富津市にありながら大字富津とは場所を異にすることから、すでに県指定史跡となっており、古墳群の中心に位置する内裏塚古墳の名を冠した「内裏塚古墳群」が妥当であると判断され、の一文を追加します。

	P34 (6) 「「原形をとどめないほどに破壊されていた」とすべきではないか」という意見について、表記を修正します。 P40 「現小糸川の位置を濃く表記した方が分かりやすいのではないか」という意見について、小糸川旧河道については、内裏塚古墳群造営時に想定される旧河道が、実際はどの範囲にまで及ぶのかを地質学分野からご教示をいただいています。そのため、2万年前、古墳時代、現在と3種類の地図を掲載することを検討しています。 P40 (1) 「「阿波国造」が天羽郡域の国造を指すとの根拠・出典を明記すべき」という意見について、「湊川流域は～可能性もある。」の4行を削除します。 P62 「亀塚古墳だけ周溝の表現が異質」という意見について、昨年度、周溝規模を修正しており、修正後の周溝を濃いトーンにしているため、表現が異なっています。
笹生委員長	ただいま、第3章について、事務局から説明がございました。この件について、委員の皆さんから質問、意見がございましたら発言願います。
赤坂委員	牧野係長から事前に資料をいただけるという連絡を見落としまして、気がついたのが会議直前でございました。簡単にですが、年号表記は西暦併記を徹底していただければと思います。 あと、27ページの形では不十分です。35ページは和暦と西暦両方の表記でちゃんと書いてあり、このような統一をお願いしたいです。最初の25ページあたりはあまりスペースがありませんので、これ以上情報を入れると全体でバランスが取れないかもしれません。ページを増やすなりして、対応していただければと思います。
小澤副委員長	色々なところから引用していると思いますので、参考文献も統一していただければと思います。
笹生委員長	はい、ご指摘ありがとうございます。全体を通して1章からでも結構ですが、何かご意見はございますか。

加藤委員	この資料は最後、製本か何かにして印刷にかけるわけですね。中身を充実させ、かつ読みやすいものを皆さんが作った場合に、やってはいけないことが結構あります。例えば、写真と本文の行間を一つ落とさないといけないとか、目の悪い人でも眼鏡をかけ換えなくても読めるように文字サイズがまとまっていること。それから地図にしても、引用で文字が潰れてしまう失敗をしていると思うので、お手すきの時間がありましたら、見開きページ全体まで拡大するようにして、一つの眼鏡で最初から最後まで通して読めるようにしてもらいたいです。 小見出しの時にどのくらい行間を空けるかなど、いろいろあるんです。おそらくいろいろな方が書いているでしょうから、それを統一する必要があります。印刷所に行くと、大見出しを何ポイントにしたら中見出しや小見出しは何ポイントで、間に1行空けるかどうかなど決め事があり、それによって読みやすくなるかどうかが決まります。今の段階でデザイン方針を作り直していった方が、シワ寄せがなくて良いと思います。一度、印刷の編集をやっている方に意見を聞いてみたらどうでしょう。写真と本文を空けなきゃいけないということもあります。 それから、図表という表現について、図表もずっとタイトルを書いています。例えば13ページで図が出てきても、タイトルのグラフなり写真なりで綺麗に分けて整理をして、キャプションを作った方がいいです。もっと言うと、キャプションに「これはどこから出典・転載しているか」というのを明記して、最初にやっておいた方がいいです。私もそうですが、いざ出すという時になって「これ、どこから出したっけ？」となって後で大変になることが多いので。分かる段階でキャプション整理をして、出典・引用元をできるだけ入れておいた方がいいと思います。 その他、29ページの図は分かりやすく、こうなっているんだなとよくわかりました。こういう図で示していただけると、文章が苦手でも理解できる方がいるでしょう。一方で、27ページの国造の支配領域というのは、何か凡例があると良いのではないのでしょうか。前方後円墳など、凡例があればと思いました。
-------------	---

	それから、調査の進捗について。30 ページから調査史が始まって一覧があり、たくさん調査されているんだとよくわかるんですが、そこで何が足りないのか、どういう成果だったのかというような記載があると、この調査で何がわかったんだというのが理解できると思います。こういう年表は大事だというのはよくあるんですが、これも踏まえて同時に不足している点や成果も整理をしていくと、次の計画策定に可能になると思います。 ありがとうございます。今回対象になった指定の古墳ごとに、こういうような調査の履歴があってここはこうなっている、でもここは情報が足りない、もしくは実は調査が済んで主体部も見つかっていますというような一覧で見た方が分かりやすいということですよね。これだと年表になっていて、この古墳はどこに価値があるのか、どこが情報不足しているのかが一目でわかる方が確かにわかりやすいと思います。 ここは一つの史跡だけではなく複数の古墳なので、全く手つかずの古墳も実はありますよというのも、これだと分かりづらいですね。横軸に古墳名を作って、周溝は残っています、調査済などと合わせれば、履歴書みたいな形になった方が議論はしやすいですよ。その方が良いと思います。詳細はそうですね。さっきおっしゃった、これ全部インデックスで出てきて、マップはその後ろという形についていた方がいいかもしれないですね。 各章ごとの意見はいただきましたが、全体を通して質問、意見がございましたら発言願います。
各委員	なし
笹生委員長	ありがとうございました。本日、今後の方向性を決めていくうえで、非常に重要なご意見をいただきました。事務局で本日の委員、オブザーバーの皆さんからの意見をまとめて、次回の会議までに素案の修正、また、第4章以降の作成を進めていただければと思います。 続きまして、次第の4.その他に移ります。委員の皆様から何かございますか。

各委員	なし
笹生委員長	オブザーバーの皆様から何かございますか。
各委員	なし
笹生委員長	事務局から何かありますか。
牧野係長	はい、次回、第3回富津市史跡内裏塚古墳群保存活用計画策定委員会会議は、令和8年6月を予定しております。改めて委員の皆さんへ日程調整の連絡をさせていただきますが、ご承知おきください。以上です。
笹生委員長	それでは、以上で議長の職を解かせていただきます。円滑な議事進行にご協力いただきまして、ありがとうございました。 事務局へお返しいたします。
篠田課長	ありがとうございました。本日は長時間にわたりご審議いただき誠にありがとうございました。いただいたご意見をとりまとめ、次回の会議で修正内容等を報告させていただきます。 以上をもちまして、第2回富津市史跡内裏塚古墳群保存活用計画策定委員会会議を終了させていただきます。